

氏 名：萩原 加奈子

学位の種類：博士（看護学）

学位記番号：甲第 233 号

学位授与年月日：2023 年 3 月 10 日

学位授与の要件：学位規則第 4 条第 1 項該当

論文審査委員：主査 五十嵐 ゆかり（聖路加国際大学教授）

副査 中山 和弘（聖路加国際大学教授）

副査 麻原 きよみ（聖路加国際大学教授）

副査 戸ヶ里 泰典（放送大学教養学部・教授）

論文題目：思春期の意思決定とヘルスリテラシー及び Sense of Coherence との
関連

博士論文審査結果

本研究は、健康生成モデルに基づき、思春期のヘルスリテラシー及び Sense of Coherence (SOC) の関連、その形成要因として意思決定への参加感や合理的意思決定スキル、意思決定への経験の関連を明らかにし、仮説モデルを検証することを目的とした。

予備調査では、養護教諭へインタビューを行い、高校生のヘルスリテラシーの現状と課題や高校生がヘルスリテラシーを身に付ける要因の一つに意思決定スキルがあると示唆された。また、思春期のヘルスリテラシー尺度「Measurement Health Literacy Among Adolescents-Questionnaire(MOHLAA-Q)(ドイツ版)」及び、子どもと若者の意思決定への参加感に関する質問票「the Child and Adolescent Participation in Decision Making Questionnaire(CAP-DMQ)(英語版)」の翻訳を行い、言語的妥当性の評価を行った。

研究方法は、全国の高校生を対象とした Web 質問紙調査であり、調査項目は 1) 基本属性 2) ヘルスリテラシー(MOHLAA-Q) 3) SOC (人生の志向性に関する 調査票) 4) 意思決定の経験 5) 意思決定への参加感(CAP-DMQ) 6) 合理的意思決定スキル(意思決定スキル尺度) 7) 健康指標(主観的健康感)であった。有効回答が得られた 434 名(1 年生 221 名、2 年生 73 名、3 年生 140 名)を分析対象とし、仮説モデルの検証を行うため、構造方程式モデリング(SEM)によるパス解析を行った。結果、意思決定への参加及び小学生時の意思決定への参加は、合理的意思決定スキルと互いに関連し合うこと、ヘルスリテラシーの向上には、意思決定への参加を促し、小学生時から意思決定への参加を増やすことが重要であること、SOC の形成には、意思決定への参加及び小学生時の意思決定への参加が、合理的意思決定スキルと互いに関連し合いながら、ヘルスリテラシーを向上させることが必要であることが示された。

審査で指摘された主な点は、以下のとおりである。

- ・文献検討：仮説の生成（概念モデル）についての追記
- ・予備調査：インタビュー調査における養護教諭を対象にした理由、インタビューガイド、分析方法の追記
- ・結果：潜在変数と観測変数を変更したため再分析
- ・考察：結果を踏まえ、どのように実践を行っていくのかについて、学校保健・看護学への意義についての記述、仮説モデルと異なった関係になった結果についての記述
- ・結論：考察や実践への示唆が含まれているため構成の整理

以上の内容に対し、審査員によって論文が適切に修正されたことを確認された。

本研究は予備調査を積み重ねて本研究に至っており、十分準備されたものである。コロナ禍の調査であったことに加え、全国の高等学校 505 校へ研究協力依頼を行うも同意は 3 校のみでデータ収集が困難であったにもかかわらず、400 名を超えるデータを収集した。本研究結果から、小学生の世代から、意思決定へ参加する経験を積むことがヘルスリテラシー及び SOC を形成することが明らかになった。本研究は学校教育へも寄与する可能性を持っており、今後のさらなる発展に期待できる研究である。

以上により、本論文は、本学学位規程第 5 条に定める博士（看護学）の学位を授与することに値するものであり、申請者は看護学における研究活動を自立して行うことに必要な高度な研究能力と豊かな学識を有すると認め、論文審査ならびに最終試験に合格と判定する。